

漢方の名医9人

東洋医学を
極めた！

自然の力と
先人の知恵を
現代医療に…
名医が明かす
「漢方医療」の
すべて



現代書林
特別取材班

編著

- 荒浪暁彦先生 あらなみクリニック
有澤正義先生 ありさわクリニック
佐藤 香先生 アイケアクリニック
豊田雅彦先生 うるおい皮ふ科クリニック
中村公一先生 日比谷トータルクリニック
原田智浩先生 若葉ファミリー常盤平駅前内科クリニック
春田博之先生 芦屋こころとからだのクリニック
朴澤孝治先生 朴澤耳鼻咽喉科・統合医療センター Tree of Life
横内正典先生 横内醫院

【漢方の名医9人】

若葉ファミリー 常盤平駅前内科クリニック院長

原田智浩先生

診療のコンセプトは、
 西洋医学と東洋医学の融合。
 両医学の特性を生かした、
 高度な内容の医療を目指す。
 爆発的な増加が予想される認知症にも、
 独自の漢方療法を模索する。

患者さんを治したい——。この一念から、専門の循環器内科以外の科目を積極的に学び、漢方は日本最古の診療所で研鑽する。本格漢方としてエキス剤、生薬末、煎じ薬を適宜に使い分けるほか、治療効果を高め、すみやかな軽快・治癒をはかる新しい処方にも挑戦。



いくら西洋医学を学んでも、治せない患者さんがいた……。
 日本最古の漢方診療所で研鑽を積む

若葉ファミリー 常盤平駅前内科クリニックがあるのは、千葉県松戸市常盤平3丁目。その名の通り、新京成線「常盤平駅」の南口から徒歩1分、セブントウン常盤平店3階にある。

3階は同内科クリニックをはじめ、歯科、眼科、耳鼻科、小児科などが入ったクリニックモールになっている。いわば、フロア全体で総合病院のようなスタイルだ。

原田先生は日本医科大学医学部を卒業（同窓会賞受賞）、同大学第一病院外科、外国船籍船医、八丈島医療、さらには東京大学医学部第三内科、東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所（現・心臓病センター）、榊原記念病院を経て、東京大学医学部附属病院にて助教、内科指導医を勤めた。2004年に東京大学医学部大学院を終了（医学博士、医学部総代）し、米国ハーバード大学での研究留学も内定したが、結局2008年に現クリニックを開院した。臨床医としての道を選んだ結果だった。

「東洋医学との最初の接点は、医学生のところ、現日本医科大学東洋医学科教授の高橋秀実先生が、セミナーを開いてくださったことにあります。メンバーは有志10人くらいで構成され、週1回1



原田智浩先生

年間ほど続き、東洋医学の考え方に
いて学ばせていただきました。大手
漢方製薬メーカーの工場見学にも参加
したことを覚えています。セミナーを
聴講し、「東洋には、西洋とは違う成
熟した医学があるのだな」と感銘を受
けました」

ちなみに西洋医学とは、欧米で発展
した医学で、日常我々が病院で受ける
ことのできる現代医学のことだ。一方
東洋医学とは本来、中国、インド、ア
ラブ・イスラム圏で発祥した医学の総称であるが、日本における東洋医学とは、中国医学」と、
それが伝来し我が国で発展した。漢方医学を指すことが多い。

大学卒業後、先生は研修医としてまず西洋医学の世界に没頭する。その先生が東洋医学を学ぶ
キッカケになったのは、「治せない患者さん」がいるという現実に気づいたことだった。

「大病院に勤務する傍ら、民間病院でも外来を担当していましたが、いろいろなお患者さんが来
院します。すると、特定の専門知識だけでは対応しきれないわけです。そこで、私は周辺他科と
いつていますが、西洋医学の範囲で専門以外の領域まで勉強する必要性に気づかされたのです」
消化器、呼吸器、糖尿病、腎臓、アレルギー、精神・心療内科、小児科、皮膚科……。治療に
活かすため、先生はこれらの周辺他科を積極的に勉強する。

必死でこれらの知識を身につけていったにもかかわらず、依然治せない病気が存在した。その
とき、学生のように学んだ東洋医学がひらめく。

「『西洋医学の未解決領域を、東洋医学で隙間を埋められるのではないだろうか』とひらめいた
のです。当初は、本などで漢方を勉強しながら実践していましたが、独学では患者さんの症状と
治療がマッチしないケースも多く経験しました。いまにして思えば未熟でした」

そんな折、東京・八重洲にある金匱会診療所で研修をする機会を得る。同診療所は創立約60
年の日本最古の漢方専門診療所で、大塚敬節先生（故人）が開設され、山田光胤先生ら高名な先
生方が診療されている。

大病院に勤務する傍ら、そこで門下生として専門研修を始めたことが本格漢方のスタートに
なる。中国の古典『傷寒論』『金匱要略』『千金方』『外台秘要』や、日本の古典『薬徴』『類聚方広義』『腹
証奇覽（翼）』『皇漢医学』などを通じて、先哲名医の口訣に触れ、処方編み方や腹診法、生薬
について学び始めた。漢方専門医となった今もなお診療所所長の山田享弘先生の元で研鑽を続け